

四国三県を巡る



瀬戸内海に面した絶好のロケーションにある「道の駅うたづ」（香川県宇多津町）

平成27年度の行政視察研修は10月27日（火）～29日（木）まで四国徳島県美波町・美馬市・高知県本山町・香川県宇多津町で実施しました。

今回の研修地のほとんどが交通の優位性を標榜する当町からすると、不便性はぬぐうべくもなく、その分野で高評価を事前に見聞するに、疑問がわくと同時に、ほとんど絶望感を感じるものであったが、研修を終えて、その素晴らしき取り組みに感動を覚えた。

○徳島県美波町
美波町の伊座利地区の地域振興とまちづくりについて研修『伊座利の未来を考える推進協議会』の取組みは「地域の為になることなら、できることは何でもやる！」の精神で、住民100人で創意工夫して交流人口2万人を生み出している事に、住民の静かなる闘志と絶対的な自信を感じることができた。

○徳島県美馬市木屋平地区
地域包括ケア事業を研修した美馬市の木屋平地区は、陸の孤島の言葉がマッチする大変山深い地域で、役所・診療

所・NPO法人などが核となり組織を動かし、システムの構築に尽力している様が他の地域とは別物であると感した。

○高知県本山町
高知県本山町の研修は、汗見川地区で農作物「しそ」を使ったアイスキャンデーを町内の製菓会社と共同製作し6次化への実績も出ている。

住民生活と経済性を連携しながら活動していることは大変参考になった。



100人のまちづくりを研修（徳島県伊座利）

研修は駆け足となったが、民間企業の営業マンだった所長の逆転の発想「地元産を販売していない道の駅」には驚きを感じ「夢を売る」「地域のPR」といった非採算性のバランスを考えることの重要性を認識した。

まちづくり、地域包括ケア、集落活動センター、道の駅の研修で各地域の真摯な取組みに接し、本格復興を目指す鏡石町のまちづくり戦略について、大いに参考となった。

常任委員会事務調査

議会常任委員会の所管事務調査は、総務文教常任委員会（菊地洋委員長）が平成27年11月4日（水）・5日（木）に、産業厚生常任委員会（長田守弘委員長）が平成27年11月9日（月）・10日（火）にそれぞれ実施しました。

総務文教委員会

総務文教常任委員会の事務調査は宮城県女川町の「震災復興事業」と柴田町の「文化施設等の管理運営」について視察調査を実施しました。女川町は震災により大規模



高台から工事状況を視察（女川町）



文化施設の管理運営を研修（柴田町）

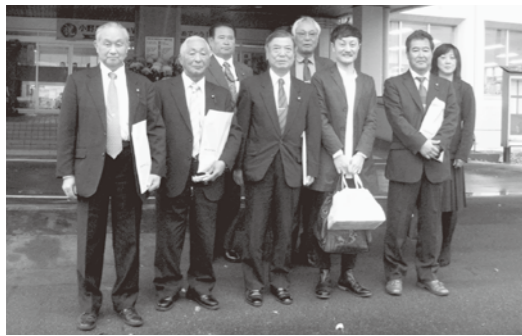
な被害を受け、災害廃棄物は通常の115年分に及んだ。津波によって被害を受けた200ha以上の区域を短期間で復興する為に採用された工事手法CM（コントラクションマネージャー）方式によって調査・測量・設計・施工がほぼ同時進行で行われており、迅速な事業が展開されていた。

柴田町では「ふるさと文化伝承館」をはじめ4つの施設が一体的に運営管理されている「しばたの郷土館」及び、併設されている図書館の町民ボランティアによるサポート委員会についても調査研修しました。

産業厚生委員会

産業厚生常任委員会の事務調査は、新潟県南魚沼市の「個性的なまちづくり」と十日町市の「地域資源とまちおこし」について視察調査を実施しました。

南魚沼市では観光地を背景にした美少女を中心とした、デジタル重視の観光パンフレット「美女旅」について調査。市内の女性が普段着でモデルとなり周遊スポットを紹介することで、同じ場所等に「行ってみたい」と思わせる手法が話題を呼んだ。



「美女旅」の発案者（右から3人目）と（南魚沼市）

十日町市では「大地の芸術祭」を調査研修。現代アートをコンテンツとして地域ブランドの確立に挑戦。世界的なアーティストが応募するような国際的芸術祭に発展した。アートが地域ブランドになり得るといふ信念を貫き通すと同時に、地域との粘り強い対話が事業を成功へと導いた。



施設の説明を受ける（道の駅いたこ）

岩瀬地方議員協議会 子育て支援。道の駅研修

鏡石町と天栄村で構成する岩瀬地方町村議会議員協議会（渡辺定己会長）視察研修は12月2日（水）3日（木）の2日間、茨城県の利根町と潮来市において実施しました。

利根町では「子育て支援事業」、潮来市では「道の駅いたこ運営事業」について直接町長や担当課長そして事業者から説明を受け、子育て支援による移住者受入促進や、道の駅を核とした観光交流人口拡大等の事業効果を研修しました。